

SDGs達成に向け宣言

参加5企業に修了証

み市と県の連携事業



須藤市長から各企業に修了証が手渡された
(笠懸公民館で)

みどりの市と県の連携事業「ぐんまSDGsコーピングプログラム

「みどりの」の成果報告発表会が14日、笠懸公民館視聴覚室で行われ、参加5企業がSDGsの達成に向けた宣言を行った。須藤昭男市長も発表の場に立ち会い、参加企業に対しプログラムの修了証を交付した。

同プログラムは、専門家による全4回の講演や個別指導を通じて、SDGsの理解を深め、経営戦略の課題を顕在化させ、目標設定や活動計画作成の手法を学ぶもの。

県主催で2020年度から実施していたが、今年度からみどりの市を含めた4市が県と

連携してプログラムを開催。第一期生として参加した企業は、タツミ製作所(大間々)、タィヨー(大間々)、協和(笠懸)、シーアンドシー(笠懸)、アライ商会(大間々)の5社。これまでの「労務問題と企業コンプライアンス」「SDGsに取り組み意義」「群馬の特性を活かした環境経営」などをテーマにした講演などを受け、最終日の14日に各企業は、「環境」「社会」「経済」の三つの側面からSDGs達成に向けた重点的取り組みや30年に向けた目標などを示し、「私たちが目指すべきこと」として宣言を掲げた。

発表の中で参加企業からは「会社として成

長はしていたが、プログラムを通して足りていないものが多くあることに気づけた」という声があった。

これまで指導を行ってきた専門家は「人材雇用を含めて、各社ともに地域への還元をとても考えている印象を受けた」と評価。須藤市長は「社ごとに修了証を手渡し「みどりの市を代表するリーディング企業5社。それぞれの企業の誠実性、社員や地域を思う気持ちが感じられた」とし、「社員や地域にプログラムで学んだことを伝播(でんぱ)させ、価値観を共有してもらった

ら」と呼び掛けた。市は来年度も同プログラムの実施を予定している。